

保護者の皆様

川崎市立生田中学校

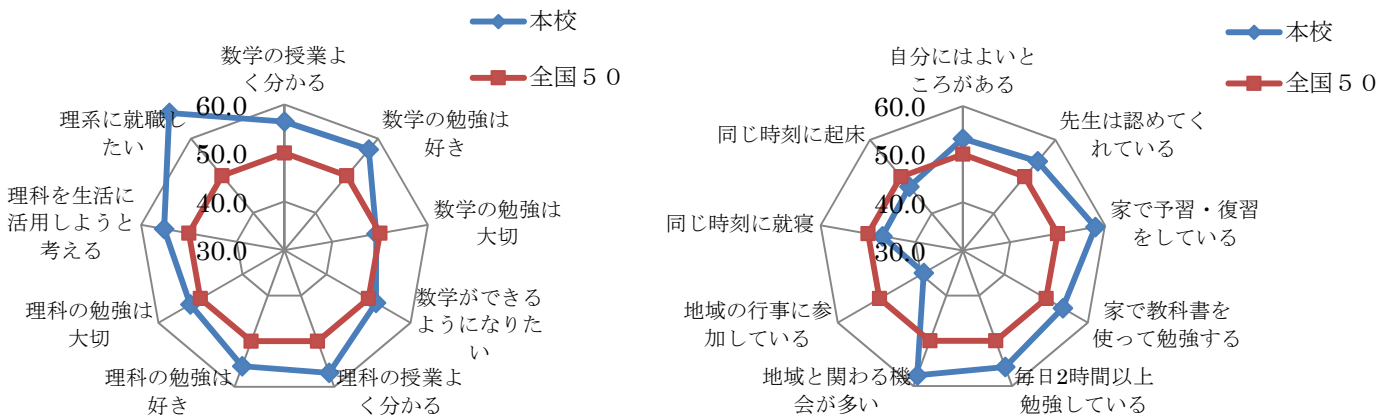
校長 小沼 謙一郎

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と生田中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。本校におきましては、一人ひとりが自ら学び、思いやりの心と正しい判断力をもって行動できる生徒の育成を目指して日々の教育活動に取り組んでおります。さて、先般、4月17日(火)に3年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配布されました。調査結果をもとに、本校の学校教育目標ならびに学校経営方針を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行いましたので、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面であることが、調査の実施要領に示されております。したがって、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えいただきたいと思います。

1 調査結果概要 (全国の結果を50とし、それに対する本校の結果を表わしています。)



2 調査結果をもとにした今後の取組

[] 昨年度の課題 [] 成果 [] 課題 [] 分析 [] 今後の取組

*示している数値・・・「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」の合計数値 ()は全国の数値

(1) 確かな学力に関する調査結果

【昨年度の課題 数学】 学び合い、話し合い活動を多く取り入れ、自分の考えを表現しうまく伝えられるよう整理し、筋道を立てて論理的に説明する力を高める授業に努めます。

<p>① 問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える 73.9%(70.3%)</p> <p>② 問題を解くとき、もっと簡単な方法を考える 73.4%(69.2%)</p>	<p>学び合いや伝え合う授業に力を入れて取り組んできました。</p> <p>①②数学への理解、意欲、諦めずに取り組む姿勢、問題解決の方法を的確に処理しようとする傾向が高いことから、学び合いや伝えあいの授業の成果ととらえます。</p> <p>① グラフの交点は何を意味しているかを場面に即して解釈することや、読み取ったことを数学的な表現を用いて論理立てて説明する問題について課題があります。</p> <p>② 日頃の学び合いや伝え合う授業では、課題解決に十分時間をかけています。そのため、個人で問題を解く時間に対する課題よりも、解決するための事由を数学的な表現を用いて説明することに課題が残りました。</p>
<p>【記述式の設問に対する正答率】</p> <p>① グラフの特徴をもとに説明する 13.6%(13.2%)</p>	
<p>【生徒質問紙の内容】</p> <p>② 解答時間は十分である(数学 B)77.6%(73.5%)</p>	

【今後の取組】 条件を踏まえて情報を読み取る力を育てるため、情報から関係性を見いだせるように表やグラフを活用し、様々な事象の変化について式や言葉で表現して説明させるなどを意識し授業を行っていきます。記述式の設問において、答えの導き方を説明する問題のいずれも無解答率が高く、自分の考えを表現すること、適切な文章での表現することに課題が残る結果となりました。記述式の設問の無解答率を10%以下にしたいと思えます。

- ① 理科の授業はよく分かる 79.7%(70.0%)
- ② 理科の授業は好き 69.8%(62.9%)

【記述式の設問に対する正答率】

- ① 3%の食塩水をつくる場面 36.5%(46.9%)

【生徒質問紙の内容】

- ② 最後まで問題を解こうと努力した。 76.6%(62.8%)

結果や状況から物事を考察する力をつける授業に取り組んできました。

- ①② 「理科の授業はよく分かる」、「理科の授業は好き」という項目が全国平均と比べて高いことから、理科に対しても高い意欲をもって取り組んでいるととらえています。
- ① 全体的にはかなり高い正答率でしたが、濃度の計算が低い正答率でしたので、1年次の領域や計算問題を復習する必要があると考えます。一方、電気分野は全国平均を大幅に超える結果となり、一生懸命取り組んでいるようすがみられました。
- ② 日頃の生活において何事にも一生懸命取り組む姿勢が結果に反映していると考えられます。

【今後の取組】

特に1年次に学習した内容の正答率が、他と比べて低い傾向にあったので、定期的に復習の時間をつくり、一層の定着を図りたいと思います。引き続き状況や結果から分かることを自ら考え、時には友達と相談しながら問題を解決していく資質と能力を養うような授業に取り組みたいと思います。また、実験などをおこない、体験による知識の定着にも力を入れていきたいと思っています。

(2) 生活に関する調査結果

【昨年度の課題】 昨年度は『自分にはよいところがある(自己肯定感が高い)』が全国平均の70.7%より高く74.8%という結果でした。学び合いや深い学びに向けたキャリア在り方生き方教育を取り入れた授業をおこなうことにより、自己肯定感をさらに高めるような取り組みをしていきます。

- ①自分にはよいところがある。 83.9%(74.8%)
 - ②家庭での学習状況 60.5%(54.3%)
- ※3項目(予習復習,教科書使用,2時間以上学習)の平均

- ①生徒が活躍する機会を多く設定し、普段の授業においても、共に考え・共に学ぶ授業を多くの教科で取り入れていることが結果に結びついたととらえています。
- ②家庭での学習習慣ができていると考えられます。

地域とのかかわり

学校では職場体験や地域の方と語り合おうの会などで地域の方と交流をしているので、高い数値が得られたと考えられますが、日々の忙しさからなかなか地域の行事には参加できていないと考えられます。

生活面

日々忙しく、塾などの習い事が曜日で異なるため、このような結果になっているようです。

【地域とのかかわり】

- ①1,2年生までに地域の人と関わったりする機会が多かった。 79.2%(68.7%)
- ②地域の行事に参加している。 35.9%(45.6%)

【生活面】

- ①毎日決まった時間に起きる 85.4%(90.3%)
- ②毎日決まった時間に寝る 70.3%(74.2%)

【今後の取組】 日頃から地域との関わりの大切さを学ぶ機会を学校行事に取り入れています。地域行事参加に結びついていません。生徒の休日の過ごし方は、部活動のあり方もふまえて改善できるように取り組んでいきます。自己肯定感に関しては昨年度を大きく上回る結果となりました。今後も共生教育やキャリア在り方生き方教育などを意識した授業に努め、相手を尊重する気持ちや人としてあるべき姿を育むために、全教育活動を通して取り組んでいきます。

教育委員会から

今年度の教育の重点として、「生き生きとした活動の推進」を掲げリーダーの育成と生徒中心の学校づくりを目指して取り組まれたことが、「自分にはよいところがある」といった自己肯定感の高まりの数値に表れてきています。今後は、課題となっている地域との関わりについて、生徒主体の活動が充実することで、生徒の意識が一層高まることを期待しております。

多摩区・教育担当